

科目名	生理機能検査学実習Ⅱ (Practice in Clinical Physiology Ⅱ)			科目コード	438
開講学科	臨床検査学科	選択区分	必修	単位数(時間)	1単位(45時間)
科目区分	専門科目	履修時期	3年次後期	関連DP	臨②③
担当教員	山口 文徳、岡村 法宜、濱 智子				
授業概要	1班4～5名のグループとなり、学生自身が検者、被検者として実際に検査を行い、手技の習熟、被験者(患者)に対する配慮、および検査データの評価を行い、様々な疾患における生理機能検査の意義について理解する。(オムニバス方式)				
授業目標	講義で学んだ検査項目について、実際に検査機器を用いて検査および計測を行い、検査項目の意義、検査技術について理解を深める。				

授業計画

実 習 内 容	
<p>① 眼底検査 [眼底写真の撮影]</p> <p>② 自律神経検査 [心拍変動検査] [サーモグラフィー]</p> <p>③ 心機図 [心尖拍動図、頸動脈波、心音図]</p> <p>④ 平衡機能検査 [足踏み検査、重心動揺検査、眼振電図]</p> <p>⑤ 代謝機能 [運動時の代謝の測定]</p> <p>⑥ 超音波検査(1) [腹部臓器の超音波検査]</p> <p>⑦ 血圧脈波検査</p> <p>⑧ 聴性脳幹反応</p> <p>⑨ 感覚機能検査 [味覚検査、嗅覚検査]</p> <p>上記の項目・内容で実習を行う 4～5名のグループで行うが、実習の具体的な内容および日程、班分けは実習開始前のオリエンテーション時に連絡する</p>	
成績評価方法	レポート(60%)、定期筆記試験(40%)
教科書	東條尚子・川良徳弘編「最新 臨床検査学講座 生理機能検査学」(医歯薬出版)
参考図書等	宮武邦夫、増田喜一「実践生理機能検査テキスト」(メディカ出版) 江永学「手にとるようにわかる超音波検査法」(バクトル・コア)
授業時間外の学習について	授業時間外の学習の進め方について、予習・復習が必要な場合は、準備学習の内容や必要時間等を書く。
関連科目	435 生理機能検査学Ⅰ 436 生理機能検査学Ⅱ 437 生理機能検査学実習Ⅰ
備考	実習開始前のオリエンテーション時に 班・日程・内容・各実習上の注意点およびレポートの作成上の注意点等について記したレジメを配布する。 実習レポートは各自が提出し、内容によっては再提出を求める。